



# 道中だより

## 第 394 号

令和8年6月18日発行

- 巻頭言
- 北海道中学校長会総会研修会
- 役員・理事一覧
- 運営方針及び活動の重点
- 地区だより・論文
- さりながら・文芸
- 事務局日誌



## こどもまんなかへ 共に歩む道中

北海道中学校長会 会長 前田 真志

令和8年度の会長として御承認いただきました、江別市立中央中学校の前田真志でございます。北海道中学校長会の歴史と伝統を引き継ぎ、未来を担う子供たちと、北海道中学校教育の発展のために全力を尽くしてまいります。よろしくお願いいたします。

さて、子供を取り巻く環境を見渡すと、世界では、自由・多角・互恵的な価値観が揺らぎ、国内では、少子・高齢化社会の中で、第4期教育振興基本計画、令和7年9月の中教審の教育課程企画特別部会から「論点整理」により、主体的・対話的で深い学びの実装、多様性の包摂、実現可能性の確保の3つの方向性が掲げられ、多様な子供たちの深い学びの実現を目指す教育システム改革の全体像が示されました。

北海道中学校長会では、先人の諸先輩がいつの時代にも、一人一人の子供のために、困難を恐れずに挑戦を続ける地域の人々と共に、着実に歩んでまいりました。本会の目的と、子供たちを取り巻く情勢を受けて、本年度は「こどもまんなかへ 共に歩む道中」と掲げます。本スローガンには、その子供と共に私たち教職員も成長する、また北海道における550の中学校が連携・協働して進んでいくことを示しました。

とはいえ、学校には今までも、多様な個性や特性、背景を有する子供がおり、諸先輩方が知恵と工夫を凝らし、教育を担ってきました。昨今の社会変化の振幅に、私たち校長は悩み、迷う時もありますが、そのような時にこそ「こどもまんなか」を軸に据え、北海道が目指す教育の基本理念、「共生」を体現する学校を率いている、という矜持をもつことが不可欠です。

今年度は、9月25日・26日に第67回北海道中学校長会研究大会函館大会が開催されます。昨年度の胆振・室蘭大会の成果を踏まえ、校長同士の対話による実践の交流や、講話・講演等を通して私たちの職能の向上を図るとともに、校長同士の連携を更に強固にしていきます。

結びになりますが、私たち中学校長は、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、子供を主語とする教育活動や多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成など、新しい時代に求められる学校づくりを推進しなくてはなりません。そのため、他校種、教育関係機関や各種団体の皆様、保護者や地域の皆様には、今後とも本会の発展に向けて一層の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

北海道中学校長会  
第99回  
総会・研修会

第99回北海道中学校長会総会・研修会が、4月28日にホテルライフオーソ札幌を会場に開催された。全道から代議員36人と地区理事20人、その他役員来賓等41人が参加した。会長挨拶、感謝状贈呈に続き、北海道教育委員会教育長様等が祝辞を述べられた。北海道教育庁学校教育局指導担当局長様の講話後、議事に入り令和8年度運営方針及び活動重点案、各部業務計画案、会計予算案、第67回北海道中学校長会研究大会函館大会等に係る審議及び承認後、総会宣言・決議を採択した。また、同日第2回副会長研修会と各専門部研修会も開催された。

第99回北海道中学校長会総会・研修会によせて

## メッセージ

第99回北海道中学校長会総会・研修会の開催を心よりお喜び申し上げます。会員の皆様におかれましては、日頃より、中学校長としての職能向上に努められるとともに、教育現場の充実と学校教育の振興に多大なるご尽力をされていることに、深く敬意を表します。中学校の3年間は、生徒の興味や適性などの多様化が進み、それぞれが自己を見つめ、物事のきまりや意義を自覚し、社会の一員として成長していく大切な時期です。家庭環境の多様化やデジタル化の進展など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、本道の未来を担う子どもたちには、状況に適応するしなやかさや、困難に向き合うたくましさ、新しいことにチャレンジする積極性など、これからの時代を生き抜くための力を養うことが求められています。道では、「こどもまんなか」の考え方をのもと、「学び」と「育ち」の取組を両輪として、家庭、学校、地域社会など関係者と連携し、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。北海道で育ち、学んだ子どもたちが、ふるさとへの思いを胸に、新しい時代の北海道の担い手となって活躍できるよう、皆様におかれましては、今後とも、これまで培われた見識と指導力をもって本道教育の充実に努められ、子どもたちの成長を導いていただきますことを、心よりお願い申し上げます。結びに、北海道中学校長会のますますのご発展、並びに本日ご参加の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念し、お祝いのメッセージといたします。

令和8年4月28日

北海道知事 鈴木直道

## 宣言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係に満ちた持続可能な社会の創り手を育成する使命を担っている。私たちは今、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新、生成AIをはじめとするICTの発展、さらには自然災害や新たな感染症への対応など、社会が大きく揺れ動く時代を生きている。このような変化の中で、中学校教育が直面する課題に的確に対応するとともに、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、全日中新教育ビジョンに基づく「学校からの教育改革」を自らの責務として推進し、教育の真価を示さなければならない。また、本道においては、将来を担う子供たちが、生まれ育った地域や環境、障がいの有無等に関わらず、多様性を認め互いを尊重し、夢と希望を抱いて学び合い、地域社会の発展のために尽くす人材へと成長できるよう、その実現に向けた学校教育の推進が求められている。北海道中学校長会は「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手を育てる中学校教育」の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、道民の負託に応えることを宣言する。

## 決議

- 第99回総会・研修会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。
- 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
  - 全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
  - 現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
  - 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
  - 「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
  - 新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮するとともに、「教職員定数改善などの教育条件の抜本的改善」「学校における働き方改革の推進」「教員の勤務実態を踏まえた環境整備」を要請し、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期する。
  - 東日本大震災や北海道胆振東部地震をはじめ、近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実にに向けた支援と全道各地区・各学校における防災教育・安全教育の一層の充実に努める。

令和8年4月28日

第99回 北海道中学校長会 総会・研修会

## 令和8年度 北海道中学校長会 役員及び理事

役職	氏名	市町村	学校
会長	前田 真志	江別	中央
副会長	1プロ 前田 真志	江別	中央
	2プロ 大谷 智昭	稚内	稚内東
	3プロ 白川 卓	函館	桔梗
	4プロ 松野 岳彦	岩見沢	明成
	5プロ 齋藤 征志	中標津	広陵
	6プロ 高橋 正幸	札幌	羊丘
事務局長	田丸 明史	札幌	発寒
事務局次長	川原 明子	札幌	稲積
事務局次長	青山 天生	旭川	永山南
会計理事	伊藤 仁弥	小樽	朝里
運営委員	1プロ 岡田 一之	北広島	大曲
	2プロ 田谷 典久	留萌	港南
	3プロ 山岸 申弥	七飯	大中山
	4プロ 高田 裕之	室蘭	桜蘭
	5プロ 大石 浩之	大樹	大樹
	6プロ 廣田 豊	札幌	あいの里東
地区理事	石狩	北村 剛	石狩 花川南
	札幌市	市川 恵幸	札幌 山鼻
	後志	佐藤 誠二	仁木 銀山
	小樽市	青柳 信正	小樽 銭函
	上川	越野 崇	中富良野 <small>なかふらの学園</small>
	旭川市	大熊 修一	旭川 六合
	宗谷	平岡 昌輝	猿払 拓心
	留萌	嶋本 敏幸	留萌 留萌

役職	氏名	市町村	学校	
地区理事	檜山	関田 貴人	乙部 乙部	
	渡島	小林 和規	北斗 浜分	
	函館市	小田 桐智	函館 巴	
	空知	三好 考央	北竜 北竜	
	胆振	福岡 雄司	伊達 星の丘	
	日高	杉山 一彦	日高 富川	
	十勝	安齋 亮太	音更 共栄	
	帯広市	今野 典之	帯広 南町	
	釧路	蠣崎 浩一	白糠 白糖学園	
	釧路市	藤森 美由紀	釧路 幣舞	
	根室	蝦名 武宣	根室 柏陵	
	オホーツク	橋本 正之	北見 南	
	経営部	副部長	折田 道啓	北広島 西部
		幹事	富士原 孝浩	千歳 青葉
研修部	幹事	江連 誠二	江別 江別第一	
	副部長	中井 幸一	札幌 篠路	
対策部	幹事	福井 浩史	札幌 啓明	
	幹事	船木 弘志	札幌 丘珠	
	副部長	松田 淳二	三笠 三笠	
情報部	幹事	高田 恭介	岩見沢 豊	
	幹事	大崎 未生	岩内 岩内中央学園	
	副部長	鏡 武志	苫小牧 明倫	
幹事	官田 真基	むかわ 鶴川		
幹事	山岸 弘昇	苫小牧 ウトナイ		

## 第99回 北海道中学校長会総会 感謝状贈呈者芳名

【退会者】

御指導ありがとうございました

役職	氏名	学校名	経歴
副会長	亀田 寛人	留萌市立留萌中学校	R7副会長、R5・R4地区理事
副会長	宮腰屋 由	江差町立江差中学校	R7副会長、R6地区理事
副会長	吉本 将樹	札幌市立稲穂中学校	R7副会長、R6事務局長、R5事務局次長 R4研修副部長、R3・R2研修幹事
地区理事	袋田佳奈恵	当麻町立当麻中学校	R7地区理事、R6副会長、R5・R4地区理事
地区理事	千葉 雅樹	旭川市立緑が丘中学校	R7地区理事
地区理事	増田 正弘	八雲町立八雲中学校	R7・R6地区理事、R5運営委員
地区理事	山口 哲也	函館市立亀田中学校	R7地区理事
地区理事	土江田亮一	釧路市立景雲中学校	R7地区理事
地区理事	吉崎 健一	稚内市立稚内東中学校	R7地区理事

役職	氏名	学校名	経歴
元副会長	柴田 真琴	仁木町立仁木中学校	R6副会長、R5対策幹事、 R4地区理事
元地区理事	千葉 良彦	富良野市立富良野西中学校	R6地区理事
元地区理事	久保 睦則	幕別町立幕別中学校	R6地区理事
元地区理事	藤田 崇充	釧路町立別保中学校	R6地区理事
元地区理事	遠山 博雅	札幌市立山鼻中学校	R5地区理事
元地区理事	山下 秀一	共和町立共和中学校	R5地区理事

※ 役職名については、直近に担当した役職の順に作成しました。

## 〈第1号議案〉 令和8年度 運営方針及び活動の重点

激動する国際社会において、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが引き続き進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正、第4期の教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、学習指導要領の改訂により、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。また、GIGAスクール構想により全国的に整備されたICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に一層充実させ、「令和の日本型学校教育」を推進することも求められている。さらに、生成AIなどデジタル技術の発展が相まって、独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきており、主体的に学びに向き合い、学びの動機付けをアップデートしながら、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠となりつつある。また、人口の多様性が増すとともに、SNSや生成AIの負の側面の影響もあり、デジタル時代に主体的に社会参画する「民主的な社会の創り手」の育成も喫緊の課題である。

本道においては、教育課題の解決と地域創生の実現に向けた「自立」「共生」の基本理念を継承し、「子どもの可能性を引き出す教育の推進」「教育の質を高める環境の確立」「持続可能な教育の実現」の施策を柱とした新たな「北海道教育推進計画」が、令和5年度に策定された。また、全国を上回るスピードで進む人口減少、少子高齢化により、地域の暮らしや経済を支える人づくりの重要性が高まっているとし、令和7年3月に「北海道総合教育大綱」改訂された。4つの基本方針には、「基本方針Ⅰ 持続可能な社会の創り手を育む」「基本方針Ⅱ 誰一人取り残されない子どもの学びと育ちの環境を整える」とあり、学校教育の重要性は今後ますます高まっていくと考えられる。そのため、私たち中学校長は、学校教育の課題を踏まえ、人間尊重の精神に徹し、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、生徒・保護者・地域住民の信頼と期待に応えるため、「こどもまんなか」の考えをもとにした教育活動の推進やSociety5.0で活躍する人材の育成など、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、学校からの教育改革を強力に推進しなければならない。また、東日本大震災や北海道胆振東部地震の風化防止に引き続き取り組むとともに、令和6年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、近年、自然災害等が多発しており、昨年12月には「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が初めて発表された。今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、防災教育、安全教育の更なる充実を図る必要がある。

以上の認識に立ち、北海道中学校長会は、校長としての使命感、リーダーシップ、人材育成力を発揮しながら、会員相互の連携の下、「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革（令和2年5月）」の内容を踏まえ、「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」の推進と全道の中学校が抱える教育課題の解決に向けて、全日本中学校長会綱領及び、本会会則に基づき、次の運営方針並びに活動の重点等に基づき、本会を確実に運営していく。



田丸 明史 事務局長  
(札幌市立発寒中学校)

### 1 運営方針

- (1) 本会の目的である「中学校長の職能の向上」と、「北海道の中学校教育の振興」を図り、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、会の総力を結集して活動の充実と諸問題の解決に努める。
- (2) 道教委をはじめ、関係諸機関等との連携を深め、国及び道・市町村教委の動向を踏まえて適切な対応に努める。
- (3) 校長としての学校経営力の向上を図り、道民の負託に応える中学校教育の創造に努める。

### 2 活動の重点

- (1) 本会の組織と機能を充実させ、活動の活性化を図る。
  - ① 「オール北海道」として一体となった教育活動の推進
  - ② 全日中新教育ビジョンを踏まえた学校からの教育改革の推進

- ③ 教育改革の推進に向けた適切かつ迅速な対応と情報の発信
  - ④ 組織体制及び運営（道中研を含む）の充実と改善
  - ⑤ 全日中、四種校長会及び教頭会等の教育関係諸機関や、PTAをはじめとした諸団体と連携した活動の推進
  - ⑥ 「第67回北海道中学校長会研究大会函館大会」の開催
- (2) 確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむための「カリキュラム・マネジメント」に努める。
- ① 全日中新教育ビジョンが目指す「確かな学力」「道徳教育」「キャリア教育」「健康教育・安全教育」「いじめ防止」等の充実を図る特色ある教育課程の編成・実施
  - ② 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育むとともに、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育活動の改善・充実
  - ③ 豊かな心と健やかな体を育てる道徳教育、体験活動、運動部活動・芸術教育、健康教育の充実
  - ④ 各教科等の関連を重視した教育課程の編成・実施・評価による改善と組織的な指導の展開、地域社会の人的・物的教育資源を効果的に活用した「カリキュラム・マネジメント」の確立、「社会に開かれた教育課程」の推進
  - ⑤ いじめ防止、不登校生徒への支援の充実、虐待の未然防止や早期発見・早期対応、子供の貧困対策、ヤングケアラーなど、誰一人取り残されない子供の学びと成長に向けての環境の整備・充実
  - ⑥ 「こどもまんなか」の考えをもとにした教育活動の推進（自己肯定感、自立した学習者）
- (3) 学校の自主性・自律性の確立に努め、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを進める。
- ① 学校評価の創意・工夫、校内研修等を通じた教職員の意識改革と資質能力の向上
  - ② 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を核とし、北海道における教員育成指標を踏まえた教職員の資質能力の向上を図る研修の促進と内容の充実
  - ③ 学校と家庭・地域社会の役割・責任の自覚と相互の連携・協働の強化
  - ④ 教職員の服務規律の遵守徹底と法規法令に基づいた適切な学校運営
  - ⑤ 不祥事の根絶に向け、教職員の意識改革や自覚を促す取組の推進
- (4) 多様な教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実を期する。
- ① 新たな教職員定数改善計画策定による教育の質的向上と特別支援学級の学級編制基準の引き上げ
  - ② 学習指導要領に基づいた教育活動を展開するための施設・設備や仕組みの整備・充実
  - ③ 休日の部活動の地域連携・地域展開に伴う人的・制度的支援の推進とともに平日の部活動の地域連携・地域展開の段階的な推進
  - ④ 人的支援も含め、教員が学習指導や生徒指導に専念できる環境の構築に向けた働き方改革の推進（学校における働き方改革の更なる加速化、教師の処遇改善、学校の指導・運営体制の充実の一体的・総合的な推進）
  - ⑤ 第2期GIGAスクール構想推進に向けた環境整備及びサポート体制の充実
  - ⑥ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置の拡充、現場を支援できる外部専門家チームやスクールロイヤーの配置拡充と連携体制の構築
  - ⑦ 「インクルーシブ教育システム」の理念を踏まえた特別支援教育の円滑な推進に向けた条件整備
  - ⑧ 異校種間の連携・接続による連続性のある教育活動の充実
  - ⑨ 高等学校入学選抜の改善及び、公立高校適正配置に対する適切な対応
  - ⑩ へき地・複式校、小中併置校、小規模校における教育推進に係る諸条件の更なる改善・環境整備の充実
  - ⑪ 校長の人事具申権の尊重と人事異動要綱に基づく適正な配置や見直し
  - ⑫ 校長・教頭・主幹教諭等候補者の選考方法の検討・改善と人材確保に向けた条件整備
  - ⑬ 広域人事、管理職の管外交流の推進と条件整備
- (5) 職責に見合った待遇改善の実現を期する。
- ① 「人材確保法」及び「義務教育費国庫負担制度」の堅持
  - ② 給与体系の改善と校長・教頭の待遇改善
  - ③ 公務員定年制の管理監督職の特例措置の拡充

## 〈第2号議案〉 令和8年度 各部業務計画案

### (1)経営部

#### 1 方針

本会の運営方針・活動の重点を受け、学校経営に法的根拠を据え、教育活動の充実に努める。

- (1) 教育制度、関係諸法規の情報収集と情報の提供、資料化に努める。
- (2) 学校経営上の諸問題や管理運営に関する法制研究を行い、その解決に資する。
- (3) 諸会議等を通じ、会員相互・地区との情報交換を図り、組織の連携・充実・発展に努める。



折田 道啓 経営副部長  
(北広島市立西部中学校)

#### 2 業務計画

##### (1) 諸会議の開催

###### ① 経営部研修会

- |           |          |                     |
|-----------|----------|---------------------|
| 第1回経営部研修会 | 4月28日(火) | 方針、業務推進計画の検討        |
| 第2回経営部研修会 | 2月12日(金) | 年度反省、次年度への課題・展望とまとめ |
- ② 小中合同学習会 7月17日(金) 質問・要望に対する学習会、道小と連携

##### (2) 法制研修会、地区別教育経営研究会の開催（今年度は道小が担当）

###### ① 法制研修会の開催について

- ・単独開催の期間は、8月までを原則とするが、遅くとも10月までには完了する。
- ・講師・助言者は、各地区で確保する。
- ・法制研修会の会場費は、各教育局に請求する。（地教委との事前確認が必要）
- ・道中事務局からの役員の派遣は、原則として行わない。

###### ② 地区別教育経営研究会の開催について

- ・開催期間は、原則として8～10月の3か月間とする。ただし、9月下旬又は10月上旬の木曜日は学校行事と重なるためできる限り避け、夏季休業中の期間が望ましい。
- ・法制研修会と合同開催の場合、開催計画書【様式1】に法制研修の項目を入れて提出する。
- ・地区別教育経営研究会に合同開催であっても、道中事務局から、役員を派遣することを原則とする。
- ・派遣役員の任は、各地区へのお礼や激励及び情勢報告や質問等に対する回答が主であり、講師を目的とした派遣ではない。
- ・事前に各地区から「質問事項」【様式2】を集約し、それに対する調査研究を行い、回答をする。
- ・事前に派遣される担当幹事と地区担当者が綿密に説明時間、質疑の時間等を打ち合わせ、各地区のニーズに合った研究会になるようにする。
- ・会場費については、日本教育公務員弘済会北海道支部に請求すると、運営費として補助される。ただし、事前の申請が必要となる。

##### (3) 法制研究集録（今年度は道中が担当）及び学校経営の資料（今年度は道小が担当）の編集

- ・法制研究集録第57集は道小が担当し、HPに2月掲載予定。
- ・学校経営の資料は道小が担当し、7月中旬に各地区校長会へ送付予定。
- ・学校経営の資料はページ数を増やさないよう、URLやQRコード等を掲載するなど工夫する。
- ・学校経営の資料の表紙は、挿絵に限定することなくモノクロ写真やマーク、模様なども可とする。

##### (4) 関係諸団体との連携（日本教育会他）

## (2)研修部

## 1 方針

新基本主題「『豊かな人生を切り拓き 持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」のもと、道中研究大会において研究交流を深めるとともに、各地区における研究を基盤とした研究活動の充実に努め、校長としての識見や指導力の向上を図る。「全日中新教育ビジョン」の内容を踏まえた研究活動を更に推進し、学校経営の充実に寄与する。

教育課程の編成・実施に資する調査研究を推進し、今日的課題の解明に努め、学校教育の推進と向上に役立てる。他部との連携を図り、業務の円滑な推進に努める。



中井 幸一 研修副部長  
(札幌市立篠路中学校)

- (1) 第77回全日本中学校長会研究協議会長野大会（10月14日・15日・16日）の円滑な運営と研究内容の充実に努めるために、開催地区並びに各地区研修担当者との連携を密にする。
- (2) 第67回北海道中学校長会研究大会函館大会（9月25日・26日）の円滑な開催及び研究活動の充実に向け、函館中学校長会との連携を密にする。
- (3) これまでの研究の成果と社会情勢や教育の動向を踏まえ、令和9年度以降の研究推進について研究主題や分科会研究主題について決定する。
- (4) 令和8年度の研究を総括し、令和9年度「研究の手引き」の作成を行う。
- (5) 教育課程に関する情報収集に努め、中学校教育における今日的課題を明らかにし、問題点の解明に寄与する。

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

- ① 第1回研修部研修会 4月28日（火）
  - ・研究方針、業務推進計画及び業務推進について
  - ・第67回北海道中学校長会研究大会函館大会、第77回全日本中学校長会研究協議会長野大会について
  - ・令和9年度「研究の手引き」の作成について
  - ・教育課程に関する調査について
  - ・各地区研究推進状況や令和8年度の研究計画について
- ② 道中研究大会合同研修会（提案者・司会者等打ち合わせ会） 7月9日（木）
- ③ 道小道中合同研修会（学習会） 7月17日（金）
- ④ 道中研究大会全体研修会（函館大会→旭川大会） 11月20日（金）
- ⑤ 第2回研修部研修会 2月12日（金）
  - ・年度末反省、次年度への課題の検討と展望・まとめについて
  - ・令和9年度以降の研究推進について
  - ・令和9年度第68回北海道中学校長会研究大会旭川大会（9月24・25日）について
  - ・令和9年度第78回全日本中学校長会研究協議会80周年東京大会（10月13・14・15日）について
  - ・令和9年度「研究の手引き」について
  - ・教育課程に関する調査について 調査項目検討
  - ・各地区研究推進の交流について

## (2) 研究活動の推進

- ① 第67回道中研函館大会と第77回全日中研長野大会の円滑な運営と研究内容の充実に努めるため、当該実行委員会との連絡・情報交流を積極的に行う。また、道中研分科会提言及び全日中研提案に向けて、研修部として担当地区や発表者へのサポートを早目に行う。
  - ② 研究資料及び情報の提供、研究校の紹介、その他、研究活動の推進
  - ③ 各地区研究推進の状況や各地区研究成果の交流を推進
  - ④ 「教育課程に関する調査」の調査項目検討・作成
- (3) 関係機関との連携・調査、その他
- ① 文部科学省や北海道教育委員会、市町村教育委員をはじめ、全日中等の関係機関との連携や調査依頼について、各地区研修部担当者の協力のもと推進する。
  - ② 第67回道中研函館大会の成功に向けて、実行委員会との連携を密にし、研修部をあげて積極的にサポートを行う。
  - ③ 第77回全日中研長野大会事務局との連携や全日中事務局、各地区研修部担当者等との研究や研修に関する情報交換や連絡・調整を推進する。
  - ④ 教育関係団体との連携・調整を推進する。

## (3)対策部

## 1 方針

本会の運営方針及び活動の重点を受け、学校運営上の諸問題について調査研究を推進し、学校経営の向上に役立てる。また、会員の職責に見合う待遇改善に向けて業務を推進する。

- (2) 生徒指導等に関する情報収集や調査研究から情報提供に努める。
- (3) 会員の身分確立や福利厚生、給与等の待遇改善に関する課題解決に向け、関係機関との連携強化に努める。
- (4) その他、緊急性のある課題や各種調査、情報に関することへの対応に努める。



松田 淳二 対策副部長  
(三笠町立三笠中学校)

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

## ① 対策部研修会

- ・第1回対策部研修会 4月28日(火) 活動方針、業務計画の検討
- ・第2回対策部研修会 2月12日(金) 業務反省、次年度の展望とまとめ

## ② 小中合同事務局研修会・学習会 7月18日(金) 道小との連絡・調整・情報交換

## (2) 各種調査の推進

## ① 「令和8年度当初の期限付き教諭配置に係る実態調査」の実施(4月中)

## ② 調査報告書の発行

## ・不登校に関する調査

- 4月28日(火) 対策部研修会で調査内容の確認
- 4月29日(水) 第2回理事研修会に提示、調査依頼
- 5月1日(金) 地区対策担当者に調査依頼及びデータの送信
- 6月5日(金) 調査〆切
- 6月19日(金) 各地区へ結果の送付(地区対策担当)
- 8月28日(金) 調査報告書原案作成
- 9月25日(金) 調査報告書の完成
- 10月2日(金) 調査報告書の会員配付(データ送信)

## ③ 全日中諸調査への協力

## ・教育研究部調査 10月

教育課程編成・実施上の諸課題や新しい時代に求められる学校づくり、全日中教育ビジョンを踏まえた、信頼される学校づくりに向けての調査研究への協力

## ・生徒指導部調査 10月

当面する生徒指導上の課題や、特別支援教育推進上の課題、さらに部活動や安全教育等、健全育成の推進・充実のための調査研究への協力

## ・給与対策部調査 12月

教員の勤務実態や定数・給与の改善に関する調査研究への協力

※ 教育研究部・生徒指導部調査は全道55校に、給与対策部調査は、道教委担当者に依頼

## ☆ 全日中調査協力校数について

地区名	学校数	調査校数	地区名	学校数	調査校数	地区名	学校数	調査校数
石狩	38	4	桧山	10	1	帯広市	14	1
後志	23	2	渡島	20	2	釧路	20	2
小樽市	12	1	函館市	19	2	釧路市	15	2
上川	34	3	空知	37	4	根室	18	2
旭川市	25	3	胆振	43	4	オホーツク	48	5
宗谷	21	2	日高	12	1	札幌	96	10
留萌	11	1	十勝	34	3	合計	550	55

※学校数はR8年度、調査校数は学校数を四捨五入した数の1割とした

## (4)情報部

## 1 方針

本会の運営方針と活動の重点を受けて、広報活動のより効果的な業務推進を図り、会員意識の高揚並びに組織活動の強化に努める。

- (1) 広く、本会活動の状況や関係機関の情報、各種資料等を提供する。
- (2) 各地区の活動や会員の研究成果、論説等の交流を図るとともに、各界から教育に寄せられる意見も掲載し、会員の職能向上に努める。
- (3) 教育関係機関・団体との情報・資料の交流並びに相互の連携・協調を図り、教育世論の喚起に努める。



鏡 武志 情報副部長  
(苫小牧市立明倫中学校)

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

## ① 情報部研修会 (定例2回)

- 第1回 4月28日(火) 本年度の活動方針、業務推進計画の検討・協議  
第2回 2月12日(金) 本年度の活動反省、来年度への展望等

## ② 小中合同事務局研修会

7月17日(金) ①道小情報部との研修、交流 ②号外発行の打ち合わせ

## ③ 編集会議 (随時)

## (2) 機関誌等の編集・発行

## ① 「道中総会・研修会要項」の編集、発行

令和8年度「第99回総会・研修会要項」の発行(4月28日(火)発行)  
令和9年度「第100回総会・研修会要項」の編集(令和9年4月発行)

## ② 会報「道中だより」の発行(予定)

第394号(6月18日) 第395号(7月9日)  
第396号(11月12日) 第397号(1月21日) ※PDF配信とする。

## ③ 号外「道小情報・道中だより」の発行

(今年度は道中担当、校正作業は道小・道中が協力して行う)

11月中旬: 8月5日(水) 開催予定の道教委との意見交換会・各課懇談会の内容

## ④ 会誌「全道中」第96号の編集、発行(3月発行予定)

今日的課題をテーマとした特集記事を予定。

## (3) 道中ホームページ(HP)の充実について

本会活動の状況や各地区発行機関誌、会誌等の交流、関係機関の情報、各種資料等の提供の場としての運用とタイムリーな更新

## (4) 全日中機関紙「中学校」の編集協力

特集「学校経営」、シリーズ「経営」、「校長会だより」、「主張」等に関し、全日中編集部協力委員として、執筆割当を計画・依頼

## (5) その他

事業、活動の記録

## 石狩管内の教育関係機関の要となつて

石狩・東部中 山口 歩

「石狩は一つ!」、管内教育関係機関の合言葉となつている。石狩管内小中学校長会は、新会員10人(中3人)を迎え、7市町村97人(中37人)でスタートした。自身の職能向上と管内教育の充実、持続可能な社会の創り手を育成する学校経営を推進するために重点を定めている。今年度も関係機関との連携を大切に、管内が一つになった教育を推進していく。

### 【活動方針】

- 1 信頼される学校経営のもと、管内教育の安定と充実・発展
- 2 職能向上を目指す研修活動の推進と教職員の資質向上
- 3 教育諸課題の把握とその解決
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善や福利厚生の充実
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進
- 6 会員相互の交流活動の推進
- 7 多様な子供たちの未来を保障する資質・能力の育成と教職員が育つ学校経営

### 【活動の重点】

- ① 人材育成
- ② 服務規律遵守に向けて

\*子供が主体となる教育課程の編成

## 新たな価値を生み出し、持続可能な社会を創る力を育む札幌市中学校長会

札幌市・八軒中 伊藤 達也

札幌市中学校長会は、13人の新会員を迎え、新津 智哉会長の下、今年度の活動をスタートした。

札幌市は学校教育の基盤をなす「人間尊重の教育」を基調とした「子ども一人一人が『自分が大切にされている』と実感できる学校づくり」を目指し、創意工夫を凝らした特色ある教育課程の実施を推進している。これを踏まえて今年度は、保護者・地域の信頼と期待に応えるため、「連携を力に変え」ながら、一層「安心感のある校長会」にするべく活動している。

さらに今年度は、令和9年度に開催する第84回大都市中学校長会連絡協議会札幌大会及び80周年を迎える札幌市中学校長会の記念誌発刊に向け、計画的、組織的に準備を進める。また、令和10年度からの新体制を目指し、校長会の組織及び研究体制づくりの推進を行う。

### 【活動の重点】

- 1 校長会の組織・運営の強化と研修の充実
- 2 学校経営の改善と充実
- 3 学校経営の条件整備と教職員の待遇改善
- 4 教育関係機関や諸団体との連携強化

## 地 区 だ よ り

### 上川の教育を次代へつなぐ — 「うまくやること」の実践的深化—

上川・なかふらの学園 越野 崇

上川管内校長会は、豊田 央新会長のもと、転入校長4人、採用校長14人を迎え、総勢79人の会員でスタートを切った。本年度は、昨年度掲げた柱を継承しつつ、その「深化と定着」の年と位置づけ、学校経営の安定化と教育の持続的発展を図るための取組を推進する。

### 【活動方針とその概要】

- 1 つながりの深化  
会員同士や教育関係者との結束力を高め、地域全体で課題解決に取り組む体制を整える。
- 2 自己研さんの充実  
教育現場のリーダーとして、校長が率先して学び続ける姿勢を示し、リーダーシップを発揮する。
- 3 持続可能な組織体制の構築  
効率的で柔軟な組織運営を実現し、次世代のリーダーを育成するための体制づくりを進める。
- 4 「うまくやること」の実践  
ファシリテーション能力を高め、対話を重視し、多様性を瞬時に理解・整理できる柔軟性としなやかな対応力を高める。

### 「最北の地でつながりを大切に」 ～すべての子供たちの未来保障を目指して～

宗谷・拓心中 平岡 昌輝

宗谷校長会は10市町村、中単置校16、併置校4、小単置校29、義務教育学校1、合計50人で組織されている。今年度は12人の新しい会員を迎え、「未来に夢や希望をもち、ともに生きる豊かな社会を創る人材を育む学校教育の推進」を目指し、つながりを大切に活動をスタートさせた。

### 【運営方針】

- ① 校長としての使命を自覚し、自らの職能向上に努めると同時に、指導性を発揮し、教職員の研修活動の活性化を図り、保護者や地域の期待に応える学校経営の充実に努める。
- ② 会員相互の理解と連携を深め、活動の活性化を図り、宗谷教育の充実・発展に努める。
- ③ 関係機関や団体との連携を更に図り、教育諸課題の解決にあたりと共に、教育条件整備に努める。

### 【活動の重点】

- ① 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
- ② 研修活動を充実し、職能向上と、教職員の資質能力の総合的な向上に努める。
- ③ 関係機関・団体と連携し、教育諸条件と教育諸課題の改善と整備・充実に努める。
- ④ 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る。

## 檜山の教育 継承・発展のため ～未来を切り拓く児童生徒の育成～

檜山・大成中 草間 留美子

檜山校長会は、小学校15人、中学校10人合計25人で組織されている。「ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒」を育む学校経営の在り方を探求し、保護者や地域住民の期待と信頼に応えるため、自らの職責を自覚し、教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化、働き方改革の推進を目指している。

### 【活動の重点】

- 1 組織マネジメントを生かした活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善（重点）
- 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進（重点）
- 4 教職員の資質能力の総合的な向上（重点）
- 5 服務規律の厳正な保持（重点）
- 6 組織活動の活性化と充実（重点）
- 7 ミドルリーダーならびに管理職候補者等の育成
- 8 防災教育と健康安全教育の充実
- 9 学校における「働き方改革」の推進

## 管内教育の充実と発展を目指し、先導的な役割を果たす組織を目指して

胆振・ウトナイ中 山岸 弘昇

胆振管内校長会は、8人の新会員を迎え、近藤 大作会長の下、小・中・義務教育学校の100人でスタートした。子供の生きる力を育み、保護者や地域の負託と信頼に応える学校経営を推進していく。

### 【活動の重点】

- 1 校長としての職能向上を図るための研修の充実
- 2 学校経営の適正化を目指した研究・実践および教育条件の整備・充実
- 3 教職員の意識改革と資質能力の向上を通じた学校改善及び働き方改革の着実な推進
- 4 次代を担う管理職の育成に向けた取組の推進
  - 校長採用及び教頭・主幹教諭昇任希望者を対象とした後継者育成研修の実施
  - 胆振教育局主催キャリアデザインセミナーとの共催
- 5 道小・道中、第4ブロック、各市町校長会との組織的連携の推進ならびに、行政機関および関係団体との連携強化
- 6 会員同士の親睦と福利厚生の実現に関する事業の推進
- 7 諸事業の機能的・効率的な運営改善及び予算執行の適正化

## 地 区 だ よ り

### 積極的に提言・発信・行動する校長会

日高・富川中 杉山 一彦

日高地区校長会は木田理博会長のもと、34人の小中学校長で活動している。

本地区では校長会員相互が積極的に情報発信と交流を図っている。直面する課題を共有し、建設的な議論を交わすことで管内各学校の運営を更に組織化し、若手人材の育成ならびに全教職員が個々の力を十分に発揮できる環境の実現を目指している。さらに、研修主題として「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す学校教育の推進」を掲げ、日高地区の課題解決に向けて取り組んでいく。

### 【重点目標】

日高管内の教育課題の解明・解決と校長自身の職能の向上を目指し、積極的に提言・発信・行動する日高地区校長会を実現する。

### 【活動の重点】

- 1 ビジョンを明確にした学校経営の推進
- 2 育成を目指す資質・能力を明確にした教育課程の実施
- 3 教職員の資質能力の向上と後継者育成
- 4 校長としての職能向上と組織体制の強化

### 「考え、挑む校長」 ～人材育成と組織マネジメント～

十勝・大樹中 大石 浩之

十勝小中校長会は、管内18町村の校長85人で組織されている。本会は、「子供の成長の歴史に責任を負う」という校長の教育実践指標(昭和55年制定)を掲げ、会員相互の研さんに励み、公教育の役割と使命の遂行に努めてきた。今年度は4月10日(金)に総会を開催し、岸研吾会長が掲げた「考え、挑む校長」のテーマの下、活動がスタートした。本会員は、これまで諸先輩が築き上げてきた「十勝ならではの教育」を継承し、教育者としての情熱と信念、経営者としての展望をもって学校経営に当たる。

### 【活動の重点】(要約)

- 1 信頼に基づく創意工夫に満ちた活力ある学校経営に努める
- 2 協働体制の確立と信頼関係の深化を図り、組織体としての機能の充実に努める
- 3 研修を深め、主体性を確立し、教育上の諸問題の解決に努める
- 4 地域社会・関係機関との連携を強化し、教育諸条件の整備に努める
- 5 待遇改善・福利厚生等の向上を図るため、情報交換と要望活動の充実に努める

## 不易と流行をおさえ、「全会員で共に歩む」校長会を目指して

釧路・白糠学園 嶋崎 浩一

今年度、釧路校長会は新たに8人（採用4人、転入4人）の校長を迎え、釧路管内の小学校長21人、中学校長15人、小中併置校長3人、義務教育学校長2人の総勢41人で構成されている。今年度、笹川 義孝会長を中心に、「5項目の方針」を確認し活動を開始した。

### 【運営方針】

- 1 会員相互のつながりを生かした組織体として、校長としての経営感覚を磨き、実践力を高める職能向上に努め、「全会員で共に歩む」校長会を目指す。
- 2 教職員としての服務規律を徹底するとともに、学校における働き方改革を一層推進させ、心理的安全性を高める職場づくりに努める。
- 3 新しい時代に求められる資質・能力など児童生徒の「生きる力」を育成する学習指導要領の確実な実施に向けて、授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立等の取組を進め、自校の教育活動の質の向上を図る。
- 4 日ごろから想定されるあらゆる事故の未然防止、事故対応、事後の改善等に向け、学校の危機管理体制の整備、マニュアルの改訂を行う。
- 5 教育関係諸団体、特に町村教育委員会と町村校長会との連携協力を密にし、教育の動向や情報を共有して諸課題への対応、解決に向け迅速に行動する。

## 「自立の精神」と「和敬の精神」を大切にして～小中学校教育の振興・発展への寄与～

釧路市・青陵中 大和 洋一

釧路市中学校校長会は、釧路市の教育行政方針「教育は人づくり～釧路の未来をつくる礎」を心に刻み、校長会会員が常に自校の教育活動に立ち回り学校の最高責任者としての使命感と自覚、会員相互が親和協力・切磋琢磨し合うことを基本方針に掲げている。

運営においては、教育改革の動向を見極めながら、校長が抱える課題と情報を組織として共有し、「職能の向上と学校教育の振興」を図るため、相互の協力や信頼関係を深め、校長会全体の力を結集して活動の充実と諸問題の解決に努める。

### 【活動の重点】（要約）

- 1 義務教育段階9年間の連続性と系統性を基軸に据え、「深い学び」の実現を目指す。
- 2 危機管理（平常時、緊急時、収束時）について、校長自らが熟知し、適切なリーダーシップを発揮する。
- 3 全ての教員が主体的に資質能力の向上を図るよう指導・助言に努める。
- 4 自校の不登校対策・対応に学びの多様化学校「くしろ創明学園」との連携を深め、全学的な取組を推進する。
- 5 北海道アクションプラン（第3期）等の目標、具体的な取組における実践にリーダーシップを発揮する。

## 地 区 だ よ り

### ふるさと根室の未来を創造する子供の育成～根室教育の発展に向けた3つの「しんか」～

根室・柏陵中 蝦名 武宣

根室管内校長会は新たに2人の校長を迎え、「継承と発展」を指針に掲げ、34校の校長が「チーム根室」としての関係機関と課題を共有し、学校経営の充実に務める。昨年度は「つながる・揃える・広げる」を合言葉に第68回道小根室大会を成功させ、結束力を道内に示した。今年度は「しんか」を掲げ①時代に応じた組織の進化、②教育改革を踏まえた学びの深化、③子供の未来を育む真価の発揮、の3つを柱に根室の教育の発展のために尽力する。

### 【活動方針】（要約）

- 1 教育情勢を的確に捉え校長の抱える問題を組織として共有し解決に努める。
- 2 関係機関との連携による教育課題の解決を図る。
- 3 校長の学校経営力の向上を図る。
- 4 信頼関係を基盤に組織体制づくりに努める。

### 【活動の重点】

- 1 家庭や地域に信頼される学校づくりの推進
- 2 社会に開かれた教育課程の実現
- 3 研修活動の推進
- 4 教育活動推進のための諸条件の整備・充実
- 5 校長会の業務改善と組織強化の推進

### 「オホーツクの大地に誇りと愛着をもつ子供」を育む学校経営をめざして

オホーツク・南中 橋本 正之

オホーツク管内校長会は、12人の新会員を迎え総勢111人で今年度の活動を開始した。ほぼ毎月行われる管内校長会事務局研修会議、年3回の市町村校長会長連絡協議会、理事会・評議員会など、オホーツクに誇りと愛着をもち、未来社会を創造する子供を育むために活動している。

今後も管内的な課題解決に努め、保護者・地域の信頼を得る組織として活動を推進していく。

### 【活動の重点】

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 児童生徒理解を深め、生徒指導の充実・特別支援教育の組織的推進と安全安心な学校生活の実現
- 4 研究活動を推進し研究成果の交流を図り、校長自らを研さん
- 5 新たな時代に応じた教職員の資質能力の総合的な向上
- 6 組織内や関係機関との連携による組織強化
- 7 管内の教育諸条件の把握と改善・整備・充実
- 8 教職員の処遇改善

## 論文

## 生徒が作るランドデザインへ ～子供が主語の学校を目指して～

島牧村立島牧中学校 梶原 大

## 1 はじめに

本校は檜山管内に隣接する後志管内の南端、漁業を主産業とする島牧村の本目（ほんめ）地区に位置する。平成2年4月、村内にあった4つの中学校（東島牧中学校、島牧中学校、原歌中学校、栄浜中学校）を統合し、島牧村立島牧中学校として開校した。学校の敷地はヒグマ対策の電気柵で完全に囲まれるほど自然豊かな環境にあり、昨年度は生徒玄関前の道路に親子3頭の熊が出没した。生徒数は減少を続け、今年度は全校生徒20人のへき地3級地に該当する極小規模校である。

学習面では、全国学力・学習状況調査において全道・全国平均を上回る傾向が続いており、今年度の自校採点結果も国語・数学ともに正答率80%以上であった。一方、体力面には課題があり、全校で体力向上の取組を進めている。

生活面では、明るく素直で真面目な生徒が多い反面、受け身な姿勢や積極性の不足が課題である。そのため、ソーシャルスキルトレーニングや生徒会主催行事を積極的に取り入れている。

## 2 なぜ生徒作成のランドデザインか？

昨年度から採用校長として赴任をしたが、ランドデザインはあるものの、生徒がその内容をどれほど理解し、それに向けて進んでいるかが疑問であった。私自身の校長としての手腕も稚拙なものであったこともあり、実際に多くの生徒がランドデザインを知らない状況であった。この実態を踏まえ、令和8年度は、生徒が考えた内容を取り入れ、図柄も生徒自身がデザインする形へと刷新した。

## 3 実際のランドデザインづくり

## (1) 島中生が目指す生徒像の策定

「子供が主語の学校」を実現するためには、生徒自身が「どのような島牧中学校生徒（島中生）になりたいか」をデザインの中心に据える必要がある。そこで、校長が全校一斉授業を行い、話し合いを通して生徒から多く

の意見を引き出した。出されたワードを生成AIによって整理し、次の3つの生徒像にまとめた。それが①「明るく、仲良く、元気よく！」②「一人一人が主役のハッピー島中！」③「笑顔で挑戦、みんなで前へ！」である。

## (2) 重点項目づくり

重点項目は、生徒にとって分かりやすいことを重視し、「校長先生から生徒の皆さんへ」と題して3つを設定した。校長として昨年度から生徒・保護者に伝え続けていた2つのこと（自分を大切にすること、全力を尽くすこと）に加え、今年度は「感謝」を新たに加えた（サブタイトルもあるが、ここでは割愛する）。

## (3) 図柄の決定

図柄作成は、美術が得意な生徒2名に依頼した。図柄に盛り込むべき必須項目を提示し、次の3つのミッションを満たす図柄を考案してもらった。①「生徒が親しみをもちやすいもの」②「島牧村の特徴が出ているもの」③「見やすく分かりやすいもの」以上の3つをもとに、何度も生徒と打ち合わせを行って完成させた。学校ホームページに掲載しているので、参照していただきたい。

## 4 浮き彫りになった課題

## (1) 学校が目指す生徒像を掲載できなかった

図柄のスペースに制約があり、生徒像を直接掲載できなかった。そのため、図柄に二次元バーコードを付し、「学校経営方針」へリンクさせることで、詳細な取組も確認できるようにした。

## (2) 生徒会と一緒に策定できなかったこと

スクールバスによる登下校の時間的制約から放課後等の時間が確保できず、生徒会と一緒に考えながら策定することができなかった。生徒会は行事の主催・運営力が育ってきているため、今後はその力を生かしながら策定していきたい。

## 5 おわりに

「子供が主語の学校」と言われて久しいが、本校ではまだ十分に実現できていない。授業においては個別最適な学習が進みつつあるものの、道半ばである。各種行事については、授業以上に改善の余地があり、それを押し進めるのは校長の役目である。今回の取組は現状を打破するための第一歩であるが、形だけのものにならないよう、今後も強かに学校経営を進めていく。そして、生徒と教職員が同じ方向を向いて歩む学校文化を育てることこそが、持続的な学校づくりの基盤になると考えている。



## 「見えないものを育てる」

南幌町立南幌中学校 小林 広

「さりながら」という接続詞の響きにふと思いを馳せる。そうではあるけれどと立ち止まり、別の視点で物事を見つめ直す言葉。教育の現場に立つ者としてこの言葉はどこか胸に刺さる。

教頭時代、校内教育支援室で不登校の生徒に「教頭っていつも何をしてるの？」と問われた。「愛想笑いかな」と私は答えた。来客対応や保護者対応で気遣う場面のことだ。生徒は「大変だね」と笑った。さりながらこれを単なる偽善で終わらせてはならない。人はそれぞれ社会的役割を持つ舞台役者だ。誠実に演じ抜くことが心を育て関係を拓く。思考が言葉になり言葉が行動になり行動が習慣となり習慣が品格をつくる。その品格こそが教師としての在り方の根幹をなすものだと思っている。

論点整理が問うのは覚えようとするのでなく理解しようとする学びの質だ。知識や技能は学力の一端に過ぎない。その水面下には思考力や判断力があり、更に深くには学びに向かう力や人間性という数値では測れない資質が広がっている。この見えない部分こそが、子供たちの生きる力を支える根っことなる。

授業が「どのように」という手順の習得に終始していないか。「なぜ」という本質的な問いをもてる子を育てているか。既知と未知を結びつけ自ら考える力を引き出す学びの場を我々は本当につくれているだろうか。

古代中国の伝説の名医・扁鵲（へんじゃく）は語った。長兄は病の兆候があらわれないうちに原因を取り除く。だから家の外では知られていない。自分を飾らずひたすら自分を磨くことに徹した兄たちの姿は、見えないところで力を尽くす教師の姿と重なる。大切なものほどなかなか見えない。さりながら必ず見ている人はいる。

山水画には山と里の間に霞がかかっている。その白い部分を西洋人は描き忘れと思うが日本人は距離や時間を読み取る。“ない”けど“ある以上”の意味が込められているのだ。教育もまた見えない部分をどれだけ大切にできるかで子供たちの未来は変わる。愛想笑いの奥にも演じることの奥にも見えない何かが宿っている。目の前の一人一人と誠実に向き合うその積み重ねこそが確かな未来を拓くと信じている。



## 「少子化」がもたらす「意識改革」

帯広市立帯広第四中学校 小林 徹哉

令和8年度、本校生徒在籍数は、1年生106人、2年生96人、3年生86人となっており、少子化の時代でありながら、入学した1年生が一番多いという状況には驚きである。十勝管内の中卒者数は徐々に減少していく予想であり、それに伴い公立高等学校の間口維持の困難さが浮き彫りになってきている。北海道教育委員会の公立高等学校配置計画の概要からも分かるように、他管では、募集停止や再編統合が計画されており、先日、開催された「第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会」に参加した際も、今後、十勝管内の公立高等学校の学級減が計画されており、当然、管内の教育長からも不安や懸念の声が寄せられていたところでもある。

私は社会科教員として、現役時代に地理や公民等の授業の中で、この先の「少子高齢化」の現状と課題を子供たちに指導してきたが、あらためて、机上の話ではなく、道内公立高等学校の現状を目の当たりにすると、北海道のみならず、この国の行く末、今後の学校の在り方等に一抹の不安を感じている。

さらに、令和8年度から実施されている国の「高等学校等就学支援金制度」に伴い、今春の本校進学先で

は、私立高校への進学ハードルが、従前より低くなっており、そのような中、上記「協議会」の中では、管内の教育長から「これまでの一律生徒数で公立高等学校間口を設定する在り方はどうか」、または「出願倍率があったにもかかわらず、入学者が定員を割っている現状（私立高校に入学している）をどう分析しているか」という極めて難しく、また、これまでの常識が通用しない時代に入ったと切迫感を感じられるような御意見もあったところである。

私が32年前に赴任した学校環境と今の学校環境では、当時では全く想定できないくらいの変化があるものの、この変化は32年かけての変化であり、ある意味緩やかであったようにも思う。しかし、現代はすでに課題が明確であり、また、このマイナスと捉えられる「少子化こそ」が、あらゆる教育制度等を短期間で改革できる「きっかけ」になるのではないかと前向きに考えることもできる。

「ピンチはチャンス」と言うが、「変化を嫌う学校」だからこそ、今、やるべきはドラスティックな学校改革と併せて子供の前立つ教員の広い視野に立った「意識改革」ではないだろうか。

文芸

## 「道を選ぶ」ということ

小平町立小平中学校 中村 智江

私には、結婚を機にオーストリアで暮らしている姉がいる。かつて幼かった姉の子らも成長し、学校に通いながら、自分の進む道を選び、今では大学や大学院の最終年度を迎えている。その歩みを見ていると、子供が自らの人生を切り拓いていく力について、改めて考えさせられるようになった。

オーストリアと日本では、15歳までが義務教育である点は共通しているが、教育観や進路の選び方には大きな違いがある。

オーストリアでは、10歳の時点で進路が分かれ、大学進学を目指すギムナジウムか、基礎学力を土台に多様な進路へとつながるミッテルシューレかを選択する。ギムナジウムでは、外国語や思考力を重視した学びが行われ、数日間に及ぶ最終試験マトゥーラに合格することで大学への道が開かれる。一方、ミッテルシューレは、基礎的な学力の定着を図りながら、実践的かつ職業的な進路につながる学びが大切にされている。驚いたのは、オーストリアでは、「自分に合わない」「学習が難しい」と感じた場合には、進路を選び直し、転校することが特別ではないということだ。

一方、日本では、中学校まで共通の教育課程で学ぶ

ため、本格的な進路選択は15歳の段階で行われる。高校進学の際は多様な選択肢があるものの、義務教育段階で進路が大きく分かれることはほとんどない。また、高校入学後に転校することは可能だが、一般的とは言い難く、入学時の選択がその後のキャリアに与える影響は小さくはない。

では、どちらの教育の在り方が望ましいのだろうか。自分らしく生きていくためには「自律」の力が欠かせないが、その力の育ち方は一様ではない。進路を選び直す経験も、同じ仲間と学びながら自分を見つめる時間も、どちらも意味のあるものだと感じる。大切なのは、その過程において、子供たちが自ら考え、選び、振り返る経験を重ねていくことである。その積み重ねこそが、自分の人生を主体的に歩んでいく力につながっていくのではないだろうか。

役職定年まで残すところあと2年。この限られた時間の中で、どれだけ「自律」につながる仕掛けを残せるだろうか。自らの考えも、ともすれば視野が狭くなりがちである。だからこそ、新しい視点からの学びをこれからも大切にしていきたい。

## 道中事務局日誌

(4月1日から6月14日まで)

※6月予定分含む

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
4	1	水	第1回事務局研修会(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	15:00	ホテルライフオート札幌
	2	木	第1回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)Web	10:00	各学校、事務所
	3	金	第1回五役研修会(五役、各部副部長、専任職員)Web	15:30	各学校、事務所
	4	土	令和7年度 第2回運営委員交流会(R7 運営委員、R7 会長、R7 会計理事、R7 事務局長、専任職員)	10:30	道中事務所
	6	月	産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業改革先導拠点選定に係る第2 回有識者会議(R7 会長)	13:00	道教委
	8	水	第1回理事研修会Web(五役、副会長、地区理事、各部幹事、専任職員)	15:00	各学校、事務所
	10	金	第1回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
	13	月	第2回事務局研修会(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	15:00	ホテルライフオート札幌
	20	月	北海道中学校体育連盟 第1回副会長会(高橋)	9:30	かでの2・7
	22	水	第2回五役研修会Web(五役、専任職員)	10:00	各学校、事務所
			北海道中学校体育連盟 第1回常任理事会Web(高橋)	13:30	自校
	28	火	令和8年度 第99回北海道中学校長会総会・研修会(五役、副会長、運営委員、地区理事、代議員、各部幹事、専任職員)	10:00	ホテルライフオート札幌
第2回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)			12:10	ホテルライフオート札幌	
第1回専門部研修会(五役、副会長、運営委員、地区理事、各部幹事、専任職員)			15:30	ホテルライフオート札幌	
北海道中学校体育連盟 第1回理事会Web(高橋)			13:00	ホテルライフオート札幌	
29	水	第2回理事研修会(五役、副会長、地区理事、各部幹事、専任職員)	10:00	ホテルライフオート札幌	

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所	
5	1	金	第2回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所	
	8	金	北海道へき地・複式教育研究連盟定期総会(高橋)	9:00	ホテルライフオート札幌	
	11	月	北海道小学校長会総会・研修会(前田)	10:00	ホテルライフオート札幌	
	15	金	北海道特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研修会(福井)	13:00	ホテルライフオート札幌	
			北海道公立学校教頭会総会研修会(高橋)	14:30	札幌サンプラザ	
	20	水	全日中 基金管理委員会(前田)	10:00	オリンピックセンター	
			全日中 常任理事会(前田)	10:30	オリンピックセンター	
			全日中 理事会(前田、田丸、高橋、大谷)	13:30	オリンピックセンター	
	21	木	全日中 総会(前田、田丸、高橋、大谷、白川、松野、齋藤、伊藤、越野、小山田、関田、鏡、橋本、川原、中井、折田、松田)	10:00	オリンピックセンター	
22	金	全日中 皇居特別参観(前田、高橋、松野、伊藤、鏡)	10:00	皇居		
28	木	第3回事務局研修会(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	10:00	道特会館		
6	1	月	日本教育公務員弘済会北海道支部 第1回幹事会・第1回運営委員会(田丸)	13:30	ホテルライフオート札幌	
	※ 予 定 分 含 む	2	火	第3回小中合同研修会(五役)	12:30	道小事務所
			北海道租税教育推進協議会定期総会(R7山田)	14:00	札幌第二合同庁舎	
			日本教育会北海道支部 第1回理事研修会(前田、田丸)	15:00	かでの2・7	
	5	金	令和8年度帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業運営協議会 Web(田丸)	10:00	自校	
			公益財団法人北海道子ども・若者応援協会 第1回理事会(松田)	14:00	第二北海道通信ビル	
	6	土	北海道PTA連合会定期総会(前田、富士原)	13:00	ホテルポールスター札幌	
13	土	日本教育会北海道支部第47回総会・教育講演会オンライン(前田、田丸、高橋)	9:30	自校		

発行者 会長 前田 真志 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道中情報部 <http://www.dochu-kochokai.jp/>